

	<p>行事</p> <p>○おひなまつり</p> <p>○春分</p> <p>○卒業式</p> <p>終業式</p>	<p>う。</p> <p>○身体検査書を家庭に</p> <p>幼稚園での発育を知らせるため今まで報告はしていたであろが書類として持たせたい。</p> <p>○年少に同じ。</p>
--	--	---

三月の保育所

鈴木とく

ひな祭がすむと、何となく気忙しく、嬉しさと、侘しさとごちやぐくした感慨が往來する保育の日が続き、年度を省ての深い反省と新年度への計画を構成する暇もなく、ずるずると仕事が続いてしまふ月です。

三月の最後の週は、殊の他、保母と云う者にとつては、各自が各様の工夫で、一陽采福の新鮮さをとりもどさなければ、新しく、福祉にかける幼児を迎える、心の態勢が整わずに、疲労感のみで過ぎ

てしまう事でしょう。

三月の保育を、概略週でわけてみますと、ひな祭についての計画と保育実施は、二月の四週目にすべきで、三日は、そのおまつりの催だけですぎますから、三日以後の、第一週目の残りの日と、第二週は、

(1) 小学校に就学する幼児が、年下の幼児の為に残す、記念の製作
(共同製作)の計画が立ちます。

(2) 幼児としての保育所生活の最後を楽しむ「集り」の計画をすめ、

(3) どの年齢のクラスも、夫々に、一年間の製作、その他、発達のあとをしのぶものを、美しく装る為に、幼児自身で、或は保母の手を借りて、仕上げを終わります。

第三週は、

四月就学する幼児の為の、祝賀式を行う用意や、練習に過し、又、この週の終る頃に、この式を催す様になる所もありましよう。

第四週から月末迄

(1)第一週の(2)の「集り」の実施や、これを兼ねてのピクニックの実施

(2)新しく迎えるお友達のために、又、一年上のクラスになつた新しい生活を始める為に、保母と一緒に、お部屋の模様替えや、いろいろの準備をしましょう。

保育所全体として、ざつとこんな週のメモが出来ましたら、今度は、各年令で考えてみましょう。

〇三才

(或は、三才四、五ヶ月迄)

乳児としての年齢は、三才になつたとたんに終わりますが、さて生活的には、幼児の年少組に、そのまゝ、すぐ編入出来る状態にはありません。保母の側にも、幼児の側にも無理な状態が起りがちなので十一月、十二月生れで満三才になつた者は大体、そのまゝ、冬を乳児部で過ごされた方がよいと思いますが、四月に、新入の年少組と、この人達が、一緒になつたのでは、保母の日々が思いやられます。それで、一ヶ月早く、年少組の中でも一年、年少組に残る者と、乳児部から上るものとで、三月に、年少組を編成してしまふか、今迄の年少組に、入れてしまふかする方法をとります。

大体の生活習慣の基礎は、この様に、するものだと云う程度について

ている筈ですから、沢山の幼児の中で、圧倒されない様に、半日幼児、半日乳児と云つた様な生活から、だんだんと幼児部の生活時間を長くして行つたらよいと思ひます。年少組の保母は、負担が多くなりますから、園長、主任保母、その他の方が、助力する必要があります。

保育の内容は、決して年少組と同一のものであつてはいけません。むしろ、自然に、幼児の生活に慣れさせて行くと言ふ方針だけで、幼児部の団体生活のきまりや、もの、あり場所等を覚えて行く程度でよいと思ひます。

話す、歌う、描く、切る、こねる(粘土等)その他簡単なリズム表現(手をたたくとか、トン トン と足をふむとか)や、とぶ、かける、引つばる等の運動等、色々経験は豊富にもつていても、まだ、言葉や、足どりがあらず様に、ヨチヨチの域をすこしぬけ出した丈の事ですから、その事を心にとめて、他の幼児の仲間に入れてあげる必要があります。第二週の祝賀式の練習等、あまり無限にしない様にしましょう。

〇四、五才児

二月に計画した種々の調査が、出来なければ、この月に持ち越される事になりますが、この月は、主題を持ち、各内容に細かくわけて保育を遂行するには、何か忙しい月の様に経験しました。むしろ、一年間の思い出風に、種々な過去の経験内容を、自分で生かして、遊びを自ら発展させて行く方向をとつた方が、様に思ひます。又、二月の調査が、持ち越されたとしても、なか／＼出来る月で

はないので、三月末から、四月初めにかけて行う様、思い切つてしまつた方がいゝと思います。

年少組は、まだ、各自の自由な選択による遊びが、主体となりませんが、全員同じものに向うことや、或時間我慢する事を、はつきり自覚させる様な、保育の体系を、時々とる必要があると思ひます。内容となるものはその保育所に依じて違ひますから、個々には申せませんが、作る事、きくこと、等、よいと思ひます。所謂、全員の一斉保育の経験させることです。

中組は、就学児のお祝いと、おなごりをかねてする「集り」の中心になる様、はじめての経験させたらよいと思ひます。

どんな風に遊ぶかは、その園での種々なしきたりや、特別な趣向があると思ひますが、この年令と、それを助ける年少組とが、無理なく出来て、保母も一日、楽しく打とけて遊びすごせるものでありたいと思ひます。

記念の製作を見さんや姉さんに贈らせるのもいゝとは思ひますが一日なんだか嬉しくて、何か心の底に残るのではないか（之は保母の一人よがりかもしれませんが）と思う様な遊び方、そんなことを工夫してみたいものだと思います。

年長組になる自覚は、事毎に、口を酔つぱくして云う必要はないと思ひます。ことに、何か失敗をたしなめるとか、何かをさせる為の方便として、「もうすぐ一番上の組になるんじゃないの」と云う言葉が出て来すぎるのを、我慢して、保育したいものと思ひます。

○就学児

三月の末迄、保育案回りの事を庶二無二遂行して、一つでも余計何かを覚えさせようと云う保育には反対ですし、又、出来ない事ではないかと思ひます。

各週の計画メモ通りを、のんびりと、子供達と相談の上で実行して行こうとする事なら、うまくゆかない場合が多い様です。

記念に残す製作等も、一組が三十人足らずでしたら、男女にわけ、二種類のものを、共同製作させる事も可能でしょうが、一組六十人近く等云う所は、考える丈でも、保母はおそろしくなるか、無理にすれば、方法的には記念品の強制になりかねない事でしょう。

たとえ着物をきない人形や、素朴な、まないた、食卓等でも、下の組の子供達には、うれしい贈物になる事でしょう。

お祝いの式の練習は、入学式や、その他の学校での儀式の経験にもなる事ですから、させてかまわなれと思ひます。心があらたまれば、形もあらたまるのたとえを、私は、幼児に経験させてよいと思ひます。

式の時は、きちんとして、静かにしていた方が、皆で気持がよいと云う風に、けれど、この緊張を、長い時間や、余り度々強い事は好ましくありません。

就学を祝う式は、最後まで格式ばつたものとせず、あくまでお祝いらしく、楽しく、その中に一瞬式らしく、大人も子供の様になぐれて、就学にはなむける気持を十分に繰り拡げられる式の演出を、幼児の為に考えてあげたいと思ひます。現在は、一保母で、意の如くならずとも、もし主任、園長の地位になつた時は、この様に幼児の式をはこびたいと夢想しておきましょう。

就学祝いのお式がすんでも、明日入学すると云う日迄、仍くお母さんの子供は、保育所で昼間の家です。いろ／＼な学校への準備はお母さんがするとして、心の準備は、殆ど、保育所が受持ちです。残る一週間は、ゆつくりと、学校の庭へ遊びに行つたり、去年上つた組のお友達のお話をしたり等して、家庭にいと離れない気分を十分味わわせたいものです。

出席は少くなると思いますが、ならない事が、本来の保育所なのだと思つてもそう氣持の上で刻んでおきましょう。

新しく入所する、年令の小さいお友達を思つて、お部屋や、積木や、三輪車や、箱等を綺麗にしておいてあげるやさしい氣持を、この最後の週に、次の年長組になるお友達をたすけ、保母に手伝いながら、充して行く様に保母が計らいましよう。

○生活習慣と健康について

日常の生活習慣については、もう項目をとる必要はなく、荒削りについた習慣を、十分に、よく、忘れないでする様に、生活をと、のえてあげる心配と、自分からの工夫で、もつと氣持よい状態に氣づく様にしてあげたいと思います。

とちこめられた冬から、漸々外あそびに、陽の温かさを求めて庭へ出る回数も自然と多くなる事でしょうが、小さい人達程、多く外氣と日光浴を心がけましょう。

春先に、風の吹く日が多い地方は、埃で、眼をわるくしたり、土いちりの手を十分に洗はなかつたり等で、急性血膜炎が、ひろがる事があります。手洗いと、洗顔と、手拭の清潔に十分注意いたしま

しょう。

その他、特別のこと、しては、式の時の態度とか、お別れ会の時他のお友達にいやがらせや、迷惑をかけない様、遊び方の約束を守る等ありましようが、一年間の生活は、口やかましく云う程の事も無い様に、幼児を生長させている筈です。特別な幼児は、又、別に原因や、扱い方を考えて行き、そうした時に、皆が不快にならぬ様特別な心づかいをしてあげましよう。之は、たゞ叱つたり、注意したり、たしなめたりする事ではありませんから、お間違ひなく。

○遊びについて

季節の歌や、踊りや、リズム遊びは、よい資料が、沢山出ましたから、その中から、自分の受持つ幼児に適したものを、他の人の案を真似ないで、選択し、それを実施して、結果を反省するくせをつけましよう。

遊びに際して、保育所向、と限られた材料のみをたよりにしないで、あらゆる材料が、幼児の心の発達を助けるものだと考えて、使うための困難を克服させたり、工夫させたりする様、提供してほしいものです。新しいま、事は、お許しを得てから、壁には手をふれるな、廊下で遊ぶと汚れるから(と云つて庭は狭い)等、子供の為に設備をと、のえたのか、誰かにみせる為に、保育用具を揃えたのかわからなくなる様な保育は、保育所には、あつてならぬ事、経営者の苦心はくみとりながら、幼児の遊び方に注意すると共に、保育所のものは、すべて、幼児の福祉の為のものとの考へ方をす、めて遊びを計画したいと思ひます。

この意味で、大人の使う大工道具も、縫針も、大きいはさみも、庖丁も、細心の注意をむけながらも、そしらぬ顔で使わせたいと思えます。

お別れ会の遊びが、家庭への保育の示威ではなく、子供同志の楽しい一日であるべきだと私は考えています。学芸会式に催して、色々と出演する事が、それを期待したのもなくとも、(?)保育園の財政を豊にする方策になつてしまつたり等、絶対ない様に、遊び会と称するものがなければ、親が保育所を理解し、協力しない等と云う考えを、幼稚園教育や、保育所保育の中から、ふんわりと閉め出す保育のし方は、情緒豊かな教育熱心な、創造と自重性にとむ若い保母さんのなすべき仕事ではないかと思えます。

材料をいろいろ工夫し、一年間の経験を傾けて、打つたり、切つたり、縫つたり、鋸をひいたり、塗りあげたりして出来るものを遊びの計画の中にとり入れ、それを利用して一日の幼児パーティー、幼児好み祝まつり風景は浮ばないでしょうか。私は、三回の就学児のお別れの集りの中、二回とも、お母さんにみせるためのものではない一日を計画して、幼児も保母も共に楽しみ名残を惜しんだ、経験をしました。その事は、事前か事後は、必ず家庭連絡をして、しらせておきます。

細々と、やり方を教えてもらわなければ、何事も計画出来ない保母ではなく、一九五三年度は、ヒントを得て自分流に先計画してみる事をお願いして、今年度の「遊び」の考え方を終りにしたいと思います。

○家庭連絡について

時折の家庭連絡は、集りをもたない母親指導である様、一寸した連絡にも、幼児についての考え方の一端を記しておきましょう。

○ひな祭と一緒に、三月の誕生会をする事

○就学祝賀式の通知

その日の時間や、いろいろな注意事項

○お別れの集りについて保育所の考え方と、その催し方について。

○その他

この月に、保護者を催して、一月三月或は一年を通して子供さんの育ち振りを、お母様方にしらせ懇談する時間をもちたいものです。

年長組は入学を控えた母親の気持をくんで、出来れば、再度、小学校の先生において願つて、懇談会をひらき、保育所を経て入学した幼児が、何となく、気ざらいされない様に、お互いの理解を深める様話し合いをする。これも計画したいと思えます。